

地域における観光資源の活用

指導教員：石川工業高等専門学校建築学科 准教授 熊澤栄二

参加学生：南川愛貴・今村友里子・四方葵・若林薫・板平卓巳

1. 調査研究成果要約

本ゼミ活動では、津幡町における観光戦略の方向性について、ヒアリング、アンケート調査、現地調査など学術研究活動を踏まえた観光資源活用の方策を提言した。成果として、観光タイプとエリア設定をはじめ、観光拠点を含む交通体系、各観光エリアのターゲット・観光戦略の立案を行った。特に河北潟干拓地では関係農家らと半年以上討議を重ね観光・活性化マスタープランの策定に成功し、以て津幡町をはじめ関係官庁へ提言を行った。

2. 調査研究の目的

【背景】津幡町は 2014 年の北陸新幹線の開通、加えて倶利伽羅合戦を題材とした大河ドラマ「木曾義仲・巴御前・火牛の計」の誘致により、今後の観光客さらに人の流動の増加が期待される地域である。しかしこれまで、県の観光戦略の方針としてすでに有名な観光地に焦点が当てられているが、津幡町を含むその他地域においては今なお空白地となっている。津幡町の政策としては、今後観光を踏まえた都市計画も検討されており、魅力的な町のアピールによる交流人口の増加、最終的には定住人口の増加を目標としている。このような津幡町の今後の可能性と課題を受け、本調査研究では「地域における観光資源の活用」を通じた総合的なまちづくりの企画と提案を行いたい。

【目的】本調査研究では、津幡町における観光資源の発掘・調査活動を通じて、観光戦略の方向付けを行うことで将来の観光マスタープランの策定に資するとともに、津幡町の観光資源の活用(以下 4 点)について具体的に提言することを目的とする。(Ⅰ～Ⅳの番号《0》～《12》については図1参照)

Ⅰ 観光地及び観光資源の発掘(《0》,《5》,《6》,《9》)

Ⅱ バスや鉄道など、各種交通手段を活用した場合の観光地までの案内(《4》,《12》)

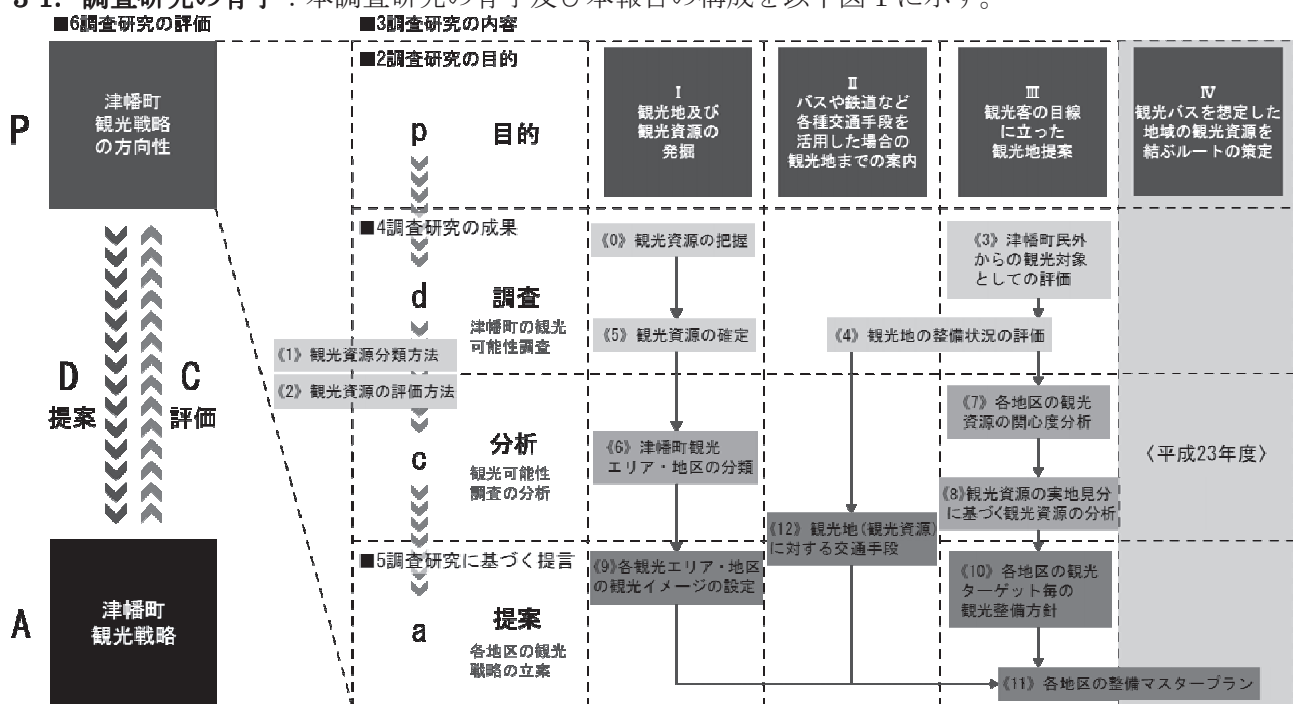
Ⅲ 観光客の目線に立った観光地提案(《3》,《4》,《7》,《8》,《10》,《11》)

Ⅳ 観光バスを想定した、地域の観光資源を結ぶルートの策定(《11》)

本調査研究は 2 年間での実施を想定しており、平成 22 年度はⅠ,Ⅱ,Ⅲについて活動を行った。

3. 調査研究の内容

3-1. 調査研究の骨子：本調査研究の骨子及び本報告の構成を以下図 1 に示す。



注：P:plan D:do C:check A:action ■1-6：本報告書の章番号

図1：調査研究の骨子

3-2. 調査研究方法[図 1《0》-《12》]及びスケジュール[表 1①-②0]

3-2-1. 観光地及び観光資源の発掘[目的Ⅰ]

図 1: 表 1 《0》:④-⑧,《5》《6》:⑨⑪,《9》:⑨

【調査】津幡町観光関連の資料分析及び関係団体へのヒアリング調査(④-⑧)により津幡町内の《0》観光資源の把握を行った。

【分析】調査に基づいた《6》津幡町観光エリア・地区の分類により《5》観光資源を確定し 6 地区のチャート作成(4-3 参照)を行った。(⑨⑪)

【提案】分析結果より本調査研究では津幡町内の 4 カテゴリ, 7 エリアの《9》各観光エリア・地区の観光イメージの設定(⑨)を行った。

3-2-2. バスや鉄道など各種交通手段を活用した場合の観光地までの案内[目的Ⅱ]

図 1: 表 1 《4》:⑫⑭,《12》:⑬

【調査】【分析】観光ボランティア同伴による観光資源の現地調査ならびに津幡町内のイベント主催者へのアンケート調査(⑫⑭)から、観光客の受入体制を中心に《4》観光地の整備状況の評価を行った。

【提案】分析結果より中心市街地を軸とした観光拠点の整備、観光バスを想定した《12》観光地(観光資源)に対する交通手段の提案(⑬)を行った。

3-2-3. 観光客の目線に立った観光地提案[目的Ⅲ]

図 1: 表 1 《3》:⑮⑯,《7》《8》:⑰,《10》:⑱,《11》:⑳

【調査】観光資源に対する関心度を図るアンケート調査(⑮⑯)を実施し《3》津幡町民外からの観光対象としての評価を行った。

【分析】3-2-1 で作成したチャートを用いて、アンケート調査に基づいた《7》各地区の観光資源の関心度分析及び《8》観光資源の実地見分に基づく分析(⑰)を行った。(4-3 参照)

【提案】チャート分析に基き《10》各地区の観光ターゲット毎の観光整備方針を検討および提案(⑱)すると共に、河北潟干拓地に関しては地域住民を含んだワーキングによる観光戦略の検討(⑲)及びワークショップを開催し《11》地区の整備のマスタープランを作成した。(⑳)

以上の提案は、津幡町への活動報告(②)を通じ評価及び要望を得た。(6 参照)

下表 1 に調査研究内容とスケジュールを示す。

活動 番号	関連 調査	関連 目的	活動名	平成22年										平成23年	
				4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	
①	-	-	津幡町との打合せ												
②	-	-	津幡町への活動報告											予定	
③	-	-	石川県・北陸農政局への活動報告											予定	
④	《0》	I	津幡町観光関連資料の分析		【全】										
⑤	《0》	I	津幡町観光ボランティアヒアリング												
⑥	《0》	I	津幡町商工会ヒアリング												
⑦	《0》	I	石川県ウォーキング協会ヒアリング												
⑧	《0》	I	「津幡みてあるき」DVD書き起し					【俱】【河】【干】【笠】【津】【中】							
⑨	《6》,《9》	I	観光エリアの検討								【俱】【河】【干】【笠】【津】【森】				
⑩	《0》	I	観光資源のマッピング							【俱】【河】【干】【笠】【津】【中】					
⑪	《5》	I	観光資源分類方法によるチャート作成									【俱】【河】【干】			
⑫	《4》	Ⅱ	イベント主催者への整備状況アンケート調査						【全】						
⑬	《12》	Ⅱ	観光拠点及び交通手段の検討										【津】		
⑭	《4》	Ⅱ,Ⅲ	観光ボランティア同伴による観光資源現地調査								【俱】【河】 【笠】【津】				
⑮	《3》	Ⅲ	県外観光客アンケート調査						【俱】【河】 【干】【森】						
⑯	《3》	Ⅲ	観光地来訪者に対するアンケート調査					【干】							
⑰	《7》,《8》	Ⅲ	チャートに基づく観光資源ターゲットの分析									【俱】【河】 【干】【森】			
⑱	《10》	Ⅲ	ターゲットに応じた観光戦略の検討										【俱】【河】【干】		
⑲	《10》	Ⅲ	ワーキングによる観光戦略の検討			【干】							【干】		
⑳	《11》	Ⅲ	ワークショップによるマスタープランの作成								【干】				

凡例 [全]:津幡全地区 [俱]:倶利伽羅地区 [河]:河合谷地区 [干]:河北潟干拓地 [笠]:笠谷地区 [津]:津幡地区 [中]:中条地区 [森]:森林公園
 -----:関連 -----:立案 -----:展開

表 1: 調査研究の活動内容及びスケジュール



⑤津幡町観光ボランティアヒアリング



⑭観光ボランティア同伴による
観光資源現地調査



⑳ワークショップによる
マスタープランの作成



②津幡町への報告

4. 調査研究の成果

本章はⅠ,Ⅱ,Ⅲの各目的に対する【調査】及び【分析】の結果を報告する。成果として 4-1(Ⅰ)では津幡町内の各地区の観光資源の特徴、4-2(Ⅱ)は観光地の観光客の受け入れ体制の状況、4-3(Ⅲ)では各地区の観光資源のターゲットを明らかにした。次章(5)では結果を踏まえⅠ,Ⅱ,Ⅲの各々に対して提案を行う。

4-1. 観光地及び観光資源の発掘[目的Ⅰ]

【調査】《0》《5》観光資源の把握と確定 【分析】《6》津幡町観光エリア・地区の分類

下表 2 は、資料分析において把握された観光資源の数(④⑧⑫)及びヒアリングにおいて観光地として可能性がある話題に挙げた地区(⑤⑥⑦)を示したものである。調査結果から各地区において次のような特徴が明らかとなった。

活動 番号	活動内容	地区名								
		津幡	中条	笠谷	井上	英田	河合谷	俱利伽羅	森林公園	干拓地
④	観光関連資料(津幡の珍ガイドマップ)	3	6	15	2	2	6	16	42	1
⑧	津幡みてあるきDVD	23	19	23	-	-	16	45	1	27
⑫	津幡町内主催観光イベント	3	0	1	2	1	4	3	0	2
⑤	津幡町観光ボランティア	○	○	○		○	○	○	○	○
⑥	津幡町商工会	○	-	-	-	-	-	△	-	-
⑦	石川ウォーキング協会	○	○	-	-	-	-	-	○	○

○:観光可能性のあるエリアを含む地区 太文字:観光可能性のあるエリア

表 2: 津幡各地区における観光資源の分布状況

- ・津幡地区: **[中心市街地]**において参勤交代等の近世の歴史及び産業といった観光資源が集中している。
- ・中条地区: 旧北國街道を中心に線状に観光資源が分布している。
- ・笠谷地区: 歴史・自然等の観光資源が豊富に残っているが、地区内に点在している。
- ・井上地区: チョンガリ音頭・踊りといった無形文化財が残る地区である。
- ・英田地区: 観光資源の数は少ないが、**[舟橋地区]**の加茂遺跡からは国宝が出土しており、古代・中世の歴史価値が非常に高い地区である。
- ・**[河合谷地区]**: 大滝等既に観光対象として魅力ある資源や、里山のような生活様式が残る地区である。
- ・**[俱利伽羅地区]**: 源平合戦、不動寺信仰、歴史国道等中世の歴史資源が豊富に残る地域がある一方、津幡の**[工業団地]**をかかえる地区でもあり、今後産業観光の可能性も期待できる。
- ・**[森林公園]**: 本州有数の広さを持つ森林公園。既存の施設をいかに活用するかが課題だといえる。
- ・**[河北潟干拓地]**: 農業専用地区であり、四季に応じた自然資源が豊富である。

調査結果から、津幡町各地区に応じて観光資源の特徴の相違や数、資源の種類(歴史・自然)に偏りが見られた。観光戦略を定める上で観光の種類やエリアの設定の必要性が明らかとなった。

4-2. バスや鉄道など各種交通手段を活用した場合の観光地までの案内[目的Ⅱ]

【調査】《4》観光地の整備状況の評価 【分析】《12》観光地(観光資源)に対する交通手段

下表 3 は、津幡町内のイベント主催者へのアンケート(表 1⑫)を基に、駐車場の整備状況から観光客の数が最多のときの受入状況を示したものである。表 3 から、津幡町内の 8 つのイベントで受入率が 1.0 を下回り、特にどまんなかフェスタの受入率は 0.15 と著しく低いことがわかる。受入体制が整っているイベントと整っていないイベントを比較すると、大型バス駐車可能台数の整備の有無が要因である。現在臨時駐車場や津幡町役場からのシャトルバスの運行が主だが、観光客が利用しやすいバスターミナルや情報拠点の必要性が明らかとなった。

イベント名	開催月	開催地区	来場者数/日	駐車場整備状況		駐車場整備状況による受入可能人数		受入率
				駐車場(台)	大型駐車場(台)	駐車場(人)	大型駐車場(人)	
能瀬川公園桜まつり	4月	英田	400	50	2	150	80	0.58
歴史国道イベント「くりから夢街道」	4月	俱利伽羅	350	170	8	510	320	2.37
俱利伽羅さん八重桜祭り	4月	俱利伽羅	2500	280	1	840	40	0.35
火と水と音の祭典 笠野まつり	7月	笠谷地区	3500	780	2	2340	80	0.69
河北潟干拓地ひまわり村	7月	河北潟干拓地	667	240	20	720	800	2.28
つばた町民八朔まつり	8月	津幡	1500	415	20	1245	800	1.36
全国選抜社会人相撲選手権大会	8月	津幡	500	125		375	0	0.75
寺尾夏祭り	8月		300	50		150	0	0.50
川尻ちゃんがり踊り	8月	井上				0	0	
つばた町民レガッタ	8月	井上	658	200		600	0	0.91
どまんなかフェスタ	9月	津幡	3000	150		450	0	0.15
河北潟ふれあいフェスタ	10月	河北潟干拓地	5000	320	20	960	800	0.35

受入可能人数: 駐車台数×3人/台、大型車駐車台数×40人/台で試算
受入率: 来場者数/駐車場整備状況による受入可能人数で試算

表 3: イベント開催時の観光客受入状況

4-3. 観光客の目線に立った観光地提案[目的Ⅲ]

【調査】《3》津幡町民外からの観光対象としての評価

【分析】《7》各地区の観光資源の関心度分析，《8》観光資源の実地見分に基づく観光資源の分析

県外観光客アンケート調査から男女年代別に観光関心度の傾向が見られた。そこで3地区3ターゲットの計9枚の属性別観光関心範囲のチャート図を作成し分析した。チャート図ではX軸方向に自然や歴史的な資源の保存と開発の関係性での位置づけ、Y軸方向に観光行動の受動性もしくは能動性の可変性を表し、各観光資源をプロットした。

属性別観光対象チャート図の一例として、倶利伽羅地区を以下の図2で示す。

津幡町観光資源の分類方法

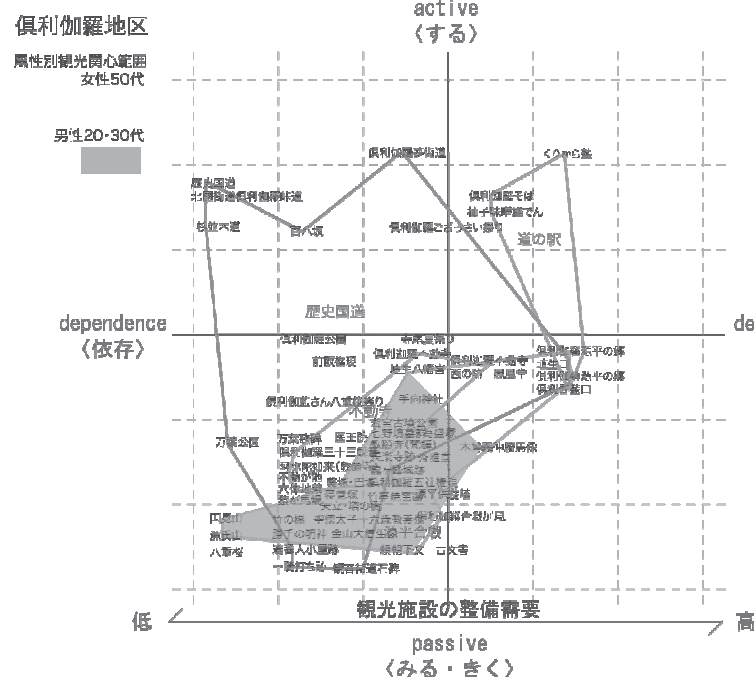
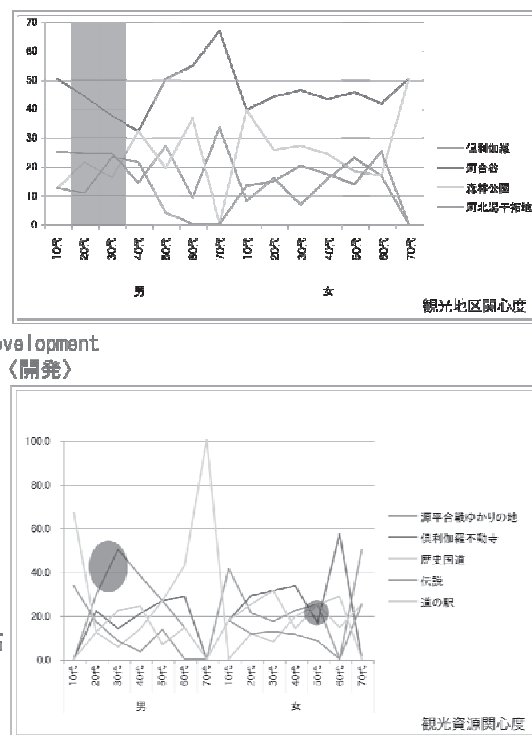


図2: 観光エリアイメージ



20代~30代男性は源平合戦に関心が偏り、受動的な観光傾向にある。対して50代女性は歴史国道、源平合戦、道の駅など広範囲の観光資源に興味を示し、観光行動としても多岐にわたる。

チャート分析により9つの属性に応じて、観光戦略を設定する必要性が明らかになった。

5. 調査研究に基づく提言

5-1. 観光地及び観光資源の発掘[目的Ⅰ]

【提案】《9》各観光エリア・地区の観光イメージの設定

4-1での分析結果を踏まえ、津幡町を4つの観光カテゴリ([拠点]など)と7つの観光エリア(town area など)の設定を行った。(図3)

以下に各観光カテゴリ及び各観光エリアの観光イメージを提案する。

【拠点】現在の津幡町のルーツとして前田藩政や江戸時代の暮らしなど町の由緒を巡る歩く。

・town area[中心市街地]: 中心市街地を観光拠点として整備し、津幡城跡地に観光ボランティアの活動拠点及び歴史資料博物館、観光サービスと観光バスのターミナルを複合した施設を建設。近世の歴史的由来をつなぐウォーキングコースの設定。

【歴史】古代から近世まで、京の都と北陸の文化の歴史的な関係や文化の往来を幅広く学ぶ。

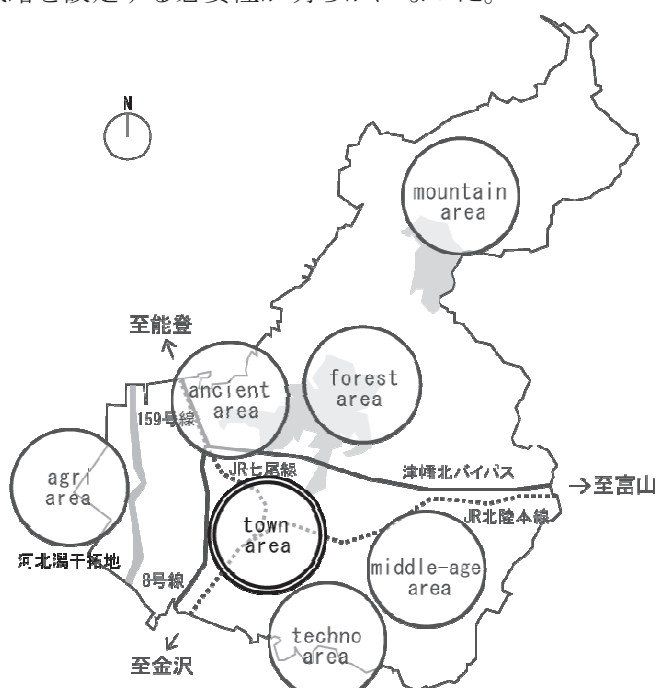


図3: 津幡町観光エリアイメージ

- ・ **ancient area**[舟橋地区]: 古代の加茂遺跡群および加賀郡勝永などの歴史的資源の整備。
- ・ **middle-age area**[倶利伽羅地区]: 倶利伽羅・竹橋界限の中世の遺産群の整備。

[自然] 中山間地の立地を活かした、キャンプ、スポーツなど体験型の観光ならびに田舎暮らしや民泊体験などを中核とした若者から家族世帯向け体験型観光。

- ・ **forest area**[森林公園]: 森林公園でのフィールドスポーツや三国山キャンプ場などの既存施設の整備に加えて、森林公園内のウォーキングコースの策定。
- ・ **mountain area**[河合谷地区]: ルーラルツーリズムなど田舎生活や食の体験を通じた拠点整備。

[産業] 農業観光や工業などの産業関係者の交流を支援する。

- ・ **agri area**[河北潟干拓地]: 河北潟干拓地の小規模農家を中心とした6次産業化（食育・農業加工業・農家レストラン）による農業を通じた都市住民との交流の促進。
- ・ **techno area**[工業団地]: 「科学のまち」として町のコンセプトを確立。県工業試験場支所の誘致および石川高専との研究交流支援、石川高専との連携による科学館の誘致。

5-2. バスや鉄道など各種交通手段を活用した場合の観光地までの案内[目的Ⅱ]

【提案】《12》観光地(観光資源)に対する交通手段

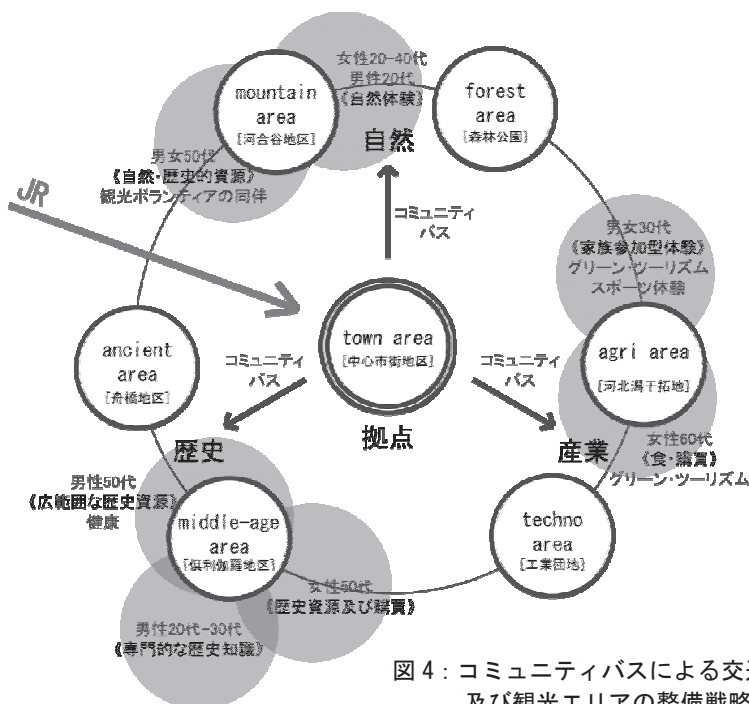


図4: コミュニティバスによる交通手段の提案
及び観光エリアの整備戦略

4-2の分析結果及び5-1での観光カテゴリと観光エリアの設定を踏まえて、交通体制による観光エリアの再組織化の提案を行う。

図4に示すように、拠点である town area(中心市街地)から各観光エリアへ観光バスによってアクセスする放射状モデルを提案する。

JRや自家用車による町外からの観光客が拠点を経路することにより、津幡観光の情報の集約を可能にするとともに、各観光エリアのターゲットに応じた観光戦略を円滑に観光客に仕掛けることが可能となる。

5-3. 観光客の目線に立った観光地提案[目的Ⅲ]

5-3-1. 各地区の観光ターゲット毎の観光整備方針

4-3のチャート分析の結果に基づき以下のターゲット毎の観光方針を提案する。(図4参照)

[自然] 河合谷地区

- ・ 女性20～40代, 男性20代: パワースポットや自然の体感を提供する。
- ・ 男女50代: パワースポット+古民家など自然と歴史的資源による《みる・きく》行為に特化した観光ボランティア同伴での観光。

[歴史] 倶利伽羅地区

- ・ 男性20代～30代: 源平合戦に焦点を絞った受動型の観光。より専門的な知識を提供する。
- ・ 男性50代: 源平合戦+不動寺+歴史国道の広範囲にわたる歴史資源を利用し、さらに健康をキーワードに、歴史国道を利用したウォーキングをルートに取り入れる。
- ・ 女性50代: 源平合戦+不動寺+歴史国道+道の駅による歴史的資源と購買意欲に対応した観光。

[産業] 河北潟干拓地地区

- ・ 男女30代: 農家レストラン+スポーツ・自然体験+食の体験など河北潟の環境を利用した能動的な家族参加型の観光。
- ・ 女性60代: 直売所+農家レストラン+食の体験など、食に関する関心度の高さからレストランや直売所等の《食べる・買う》行為による観光。

5-3-2. 各地区の整備マスタープラン

5-3-1 による観光ターゲット毎の観光整備方針に基づき観光整備のマスタープランの作成を行った。

河北潟干拓地に関しては、アンケート分析によるターゲットの設定に加え、地域住民・関係者の参加によるワーキング(6回)やワークショップ(3回)を開催しマスタープランを策定した。(図5)

ワーキング及び

ワークショップ検討事項

- ・拠点整備の検討。
- ・情報発信手法の検討。
- ・ターゲットと観光資源の分布によるエリアの設定。
- ・ターゲットに応じたイベント企画の検討。
- ・ウォーキング・サイクリングコースの設定。
- ・観光施設の整備の検討。



図5:ワークショップによる河北潟干拓地のマスタープラン

6. 調査研究の評価

調査研究の成果(4)加えて成果を踏まえた調査研究に基づく提言(5)を津幡町に向け報告・提言した。(平成22年12月24日(金)) その際に出席者(副町長及び産業建設部4名、町民福祉部3名、教育委員会3名、総務部3名、他1名)から質疑及び別途のアンケートを通じて、報告内容の評価とともに改めて町の観光戦略に基づく要望を受けた。津幡町からの評価(左表)及び評価を受けての自己評価(右表)を表4にまとめた。自己評価を本調査研究の今後の方針とする。

外部評価			自己評価及び今後の方針	
関連目的	意見分類	意見内容	関連目的	活動方針
I	方針	県内における「科学の町」としての戦略	I	「科学」に対する観光視点からの提案
I	方針	太河に誘致による倶利伽羅地区の整備	I	町の観光方針を踏まえた提案の発展
I	方針	津幡町内の歴史資源の整備	I	北陸或いは県内観光における津幡観光の位置づけ
I	方針	森林公園の活用	I	観光拠点の立地の再検討と施設提案
I	方針	河北潟干拓地の農業振興を目指した観光	I	交通手段・アクセス方法の再検討
I	要望	他自治体観光戦略との相違・位置づけ	I	観光地の整備状況評価等調査の継続・発展
II	要望	観光拠点及び観光客対象のバスターミナルの整備	II	観光資源評価手法の確立による観光対象の明示
II	再検討	中心市街地を軸としたコミュニティバスによるアクセス	II	各観光地区の観光整備マスタープランの作成
II	要望	コミュニティバスの路線及び運行時期の検討	II	観光客の傾向に応じた観光ルートの策定
III	再検討	観光資源の活用・整備方針の明確化	III	津幡における中長期型観光の可能性の検討
III	方針	歴史国道の活用・整備[倶利伽羅地区]		
III	要望	小学校跡地等既存施設の活用[河合谷地区]		
III	要望	四季に応じた観光戦略の立案[河北潟干拓地]		
-	要望	コミュニティバスによる移動と徒歩による観光部分の区別		
-	要望	半日を想定した観光コースの策定		

凡例 方針:津幡町観光戦略 要望:調査研究への要望
再検討:調査研究の提案に対する再検討の要請

表4: 調査研究に対する外部評価及び自己評価

加えて、津幡町への最終報告を平成23年2月、河北潟干拓地のマスタープランの策定の報告を平成23年1月25日(火)に石川県及び北陸農政局に向けて提案し再度評価を受ける予定である。

関連団体及び謝辞

本ゼミ活動にご協力頂きました、津幡町企画財政課および産業経済課、観光ボランティアガイドつばたふるさと探偵団、津幡町商工会、河北潟干拓地改良区、河北潟生産組合、石川フォレストサポーター会、花とハーブペザン、Honery.com プロジェクト、はな宴、(有)CORAZON、石川県ウォーキング協会、河北潟干拓地直売所の方々、及びアンケートにご協力頂きました皆様に厚くお礼申し上げます。